

●●VOL.1

# ヨコレイNOTE

第61期報告書(平成19年10月1日～平成20年9月30日)

特集:ヨコレイ・マネジメント

## 新中期経営計画

P3

ヨコレイ・ビジネス

冷蔵倉庫事業

【物流センターの素顔(京浜地区)】

P5

食品販売事業

【エビ・ビジネスにおける強み】

P7

ヨコレイ・メッセージ [株主の皆さまへ]

P1

ヨコレイ・トピックス [環境への取り組み]

P2

営業概況

P9

連結財務諸表

P11

特別コラム [ヨコレイくんが行く!「倉庫の中を探検 VOL.⑥」]

P13

会社概要・株式の状況・役員及び執行役員

P14



証券コード: 2874



### 株主の皆さまへ



代表取締役社長  
吉川俊雄

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃のご支援に対し、厚く御礼申し上げます。

第61期(平成19年10月1日から平成20年9月30日)における日本経済は、原油や原材料価格の高騰に加え、米国サブプライムローン問題に端を発する世界的な景気減速懸念により先行き不透明な状況で推移いたしました。また食の安全に対する消費者の信頼感が揺らぐなか、とくに中国からの輸入食品が激減しました。

こうした厳しい経営環境のもと、当社グループは、冷蔵倉庫事業、食品販売事業ともにサービスの高度化と新規需要の開拓に注力しました。なかでも冷蔵倉庫に関しては、鳥栖第二物流センター、十勝第二物流センターが稼働を開始し、収容能力のさらなる増強を実現しました。

この結果、当期の連結業績は、売上高1,252億円(前期比0.5%増)、経常利益

36億円(前期比1.9%増)、当期純利益18億円(前期比1.6%減)となり、当期を最終年度とする中期経営計画の売上目標及び利益目標は当期純利益を除いて達成することができました。なお期末配当は1株当たり11円(中間配当9円と合わせ年間20円)とさせていただきます。

世界的な景気後退や物価上昇など、今後も経営環境は楽観視できませんが、当社グループは新設物流センターの早期軌道化、利益率向上、環境問題への取り組みを3本の柱として積極的な事業運営を進めていきます。また、消費者の皆さまに安全な食品を供給していくことを企業使命と考え、品質管理の徹底に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、なお一層のご支援ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。



## ヨコレイ・トピックス 環境への取り組み

当社では、環境への取り組みとして、

- ①事業活動における環境負荷削減対策：「グリーン経営の認証取得」
- ②CO<sub>2</sub>削減対策：太陽光発電システムの導入と高効率照明器具への入替
- ③脱フロン対策：自然冷媒のアンモニアの利用を積極的に推進しています。



### グリーン経営認証取得

ヨコレイは九州地区、東北・北海道地区の冷蔵倉庫事業所(17カ所)で「グリーン経営認証」を取得しました。

特に、大きな社会問題となっている、廃棄物の適正な処理に注力しています。

グリーン経営は、環境保全のための企業としての取り組みの一環であり、社内環境及び意識改革に役立てるものですが、環境保全への意志を明確にすることで、今後ますます多くのお客様の期待に応えるように努力してまいります。



### グリーン経営認証とは

交通エコロジー・モビリティ財団が認証機関となり環境パフォーマンス評価ISO14031やISO14001の考え方に基づき作成された承認基準により審査され、一定のレベル以上の環境保全の取り組みを行っている事業者に対して認証・登録されるものです。

クスノキ(10m)を  
植えたのと同じ  
CO<sub>2</sub>削減の効果があります。



高効率  
照明器具による  
省エネルギー  
事業  
**1,500本**

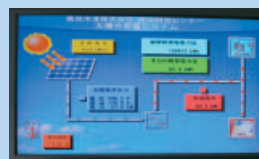
太陽光発電  
**280本**

**合計 1,780本**

(注) 二酸化炭素排出係数:0.378KgCO<sub>2</sub>/kwh

### 太陽光発電システム

- 導入済み事業所  
伊勢原・都城・横浜物流センターの3カ所
- 2009年導入予定事業所  
鳥栖第二・加須第二物流センターの2カ所



### 高効率照明器具への入替

冷蔵倉庫内の照明器具を高効率照明器具への入替を10事業所で実施しました。CO<sub>2</sub>排出量削減の効果がプラスして電力消費量の削減にも貢献しています。

### 自然冷媒の採用

当社では、13年前から新増設の冷蔵倉庫に対して、フロンから自然冷媒であるアンモニアへの切り替えを進めてきました。

当期は新設の鳥栖第二・十勝第二物流センターで採用し、これで合計10カ所が採用しています。



自然冷媒を採用している  
都城物流センター



# 新中期経営計画

(平成20年10月～平成23年9月)

ヨコレイでは、近年激しく変動する市場の変化に対応し、最大の目標を「企業価値の向上」と定め、平成23年を最終年度とする新中期経営計画「第三次中期経営計画」を策定しました。

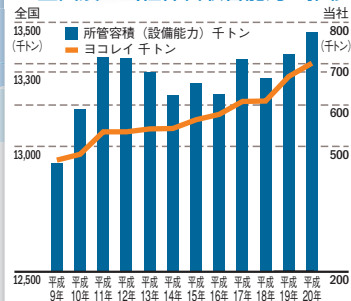
※数値目標は単体での目標です。

## 冷蔵倉庫事業

### <市場の変化>

競争は激化していますが、ヨコレイの発展余地は大きいと考えています。

全国及び当社保管収容能力の推移



出所 (社)日本冷蔵倉庫協会 冷蔵能力推移表より作成  
営業用に自家用を加えた値を採用した

国内の保管収容能力が増加し競争は激化していますが、ヨコレイでは積極投資と社員による物流オペレーションで、ビジネスの拡大を図っています。



全国及び当社保管収容能力の推移

## 多彩な物流サー

●長年培ってきた冷蔵・保管ノウハウをベースとし、そこに配送・通関を組み合わせること等により多様なサービスを構築します。

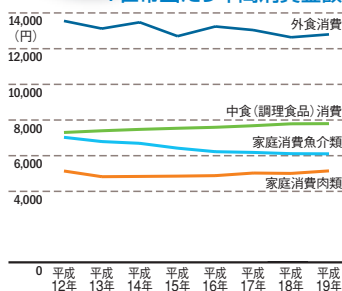


## 食品販売事業

### <市場の変化>

食の安全への対応と、商材確保が最重要課題となっています。

1世帯当たり年間消費金額



出所 総務省「家計調査年表 総世帯」第1-17表より作成  
1世帯人員数を2000年と等しくなるように修正した

国内市場が成熟する中で、食の安全性に対して市場が敏感に反応しています。世界的には商材確保の重要性がますます高まっている状況です。



1世帯当たり年間消費金額

## 「原料サプライヤー」



●世界的な資源不足に対して、これまで育成してきた主力商材を中心に、市場の動きに迅速に対応し、利益獲得を目指します。

# 全社運営方針

社員による「ヨコレイ品質」の作り込み

【冷蔵倉庫事業】多彩な物流サービスの積極提案

【食品販売事業】「原料サプライヤー」としての機能再構築

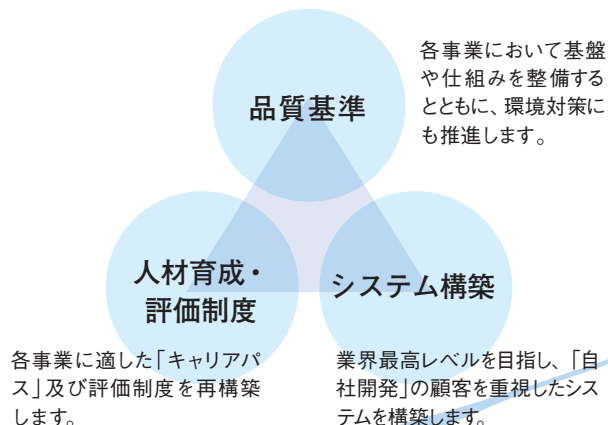
企業価値の  
向上へ

## ビスの積極提案

●顧客のニーズにあった物流サービスと提案営業体制を、地域(ブロック)単位で再構築します。



## 社員による「ヨコレイ品質」の作り込み



## としての機能再構築

●営業担当者が仕入から販売までの一貫した事業運営方法を更に強化させ、調達、販売、利益、リスク管理を再構築します。

一貫体制 例：養殖エビ(加工品)の生産から納品までの流れ

養殖 → 加工 → 輸入 → 販売

## 数値目標(単体)

●売上高 平成20年 1,248億円 → 平成23年 1,305億円 4.5% ↑

●営業利益 平成20年 34億円 → 平成23年 45億円 30.0% ↑

●経常利益 平成20年 36億円 → 平成23年 47億円 27.5% ↑

●当期純利益 平成20年 19億円 → 平成23年 26億円 35.2% ↑



ヨコレイ・ビジネス

# 冷蔵倉庫事業

## ヨコレイの 冷蔵倉庫事業 の強み

ヨコレイは創業間もない昭和24年に第1号倉庫(横浜工場)を建設して以来、最高品質の冷蔵倉庫事業を展開し、わが国の食品の安定供給に貢献してきました。収容能力は当期末で70万トン台に達し、業界第2位の地位を確保しています。成長の原動力は積極的な設備投資と顧客ニーズに迅速に対応する組織体制です。独自開発の最先端冷蔵システムを擁した物流センターを多数建設するとともに、効率的な物流ネットワークを構築することにより業界を力強くリードしています。

## 物流センターの素顔（京浜地区）

「食の安全」を維持するために、ISO9001認定によるハイクオリティ

### 東京地区

#### 沿革

東京エリアで事業拡大の一步として、昭和40年9月、東品川に当時では東洋一を誇る旧東京工場を建設。続いて、昭和54年12月、東京都大田区には東京第二物流センターの前身である平和島工場を建設し、現在大井埠頭に隣接する2物流センターの確固たる営業基盤を作り上げました。



TOKYO

### 横浜地区

#### 沿革

昭和57年5月、横浜市が推進する中央卸売市場整備計画に協力し、ヨコレイの第1号倉庫である横浜工場をスクラップ&ビルドによって、現在の山内物流センターが完成しました。卸売市場内の立地を生かした事業を展開してきました。横浜地区にはこの他、子安物流センター、大黒物流センター、横浜物流センターを建設し、現在では4物流センターを構え、横浜地区の物流センター網を構築しました。



YOKOHAMA

#### 山内物流センター

(冷蔵収容能力 4,352トン)





な保管を目指しています。

### 東京物流センター（冷蔵収容能力2万8,499トン）

昭和62年10月、旧東京工場をスクラップ&ビルドし、大井埠頭のコンテナヤードに隣接した敷地内に東京物流センターをオープンしました。水陸ともに交通至便な流通の要所にあることから、現在ではヨコレイを代表する港湾型物流センターとして海外からの保税品（水・畜・農産物）を中心に幅広い商品を取り扱っています。

### 東京第二物流センター（冷蔵収容能力3万3,912トン）

平成10年3月、平和島工場をスクラップ&ビルドし、大井埠頭のコンテナヤード隣地に完成。ヨコレイ50周年を飾るにふさわしく、長年に亘り蓄積された経験とノウハウを結集した巨大かつ最新鋭の未来型冷蔵倉庫として注目を集めました。現在では東京物流センターと並ぶ港湾型物流センターとして主に保税品を扱っています。

### 子安物流センター（冷蔵収容能力1万4,492トン）

「子安」「東神奈川」両ICを利用できる横浜市の中心部に立地し、優れた利便性を有しています。昭和44年9月のオープン時は輸入農産物の害虫駆除を行う燻蒸庫などを併設する多目的な冷蔵倉庫でしたが、現在は塩蔵品貨物などの保管庫としても利用されています。

### 大黒物流センター（冷蔵収容能力3万2,697トン）

横浜市の「みなとみらい21計画」の一環として、新港埠頭工場（昭和38年完成）の大黒埠頭内への移転が進められ、昭和63年8月にオープンしました。「大黒ジャンクション」に隣接しており、横浜・東京間を結ぶ流通ポイントとしての役割も担っています。

### 横浜物流センター（冷蔵収容能力2万3,384トン）

平成19年2月に完成した次世代型の物流センター。ワイドスパン工法により1階プラットホームに柱が1本もない広大なスペースを確保しているほか、食品の安全に配慮したクリーンルーム、CO<sub>2</sub>削減のための太陽光発電システムなど、先端技術の粋を集めました。

## 当期の概況

当期末の国内の冷蔵設備保管収容能力は、平成20年5月に稼働いたしました鳥栖第二物流センター（22,143トン）及び平成20年7月に稼働いたしました十勝第二物流センター（19,560トン）の新設により710千トンとなりました。

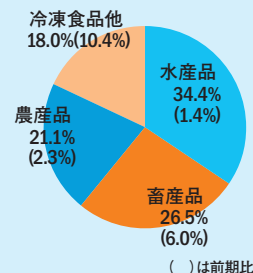
水産品の価格高騰や今年に入り中国からの輸入品が減少する等の厳しい環境ではありましたが、前期に引き続き貨物構成の見直しや新規顧客の開拓及び地域に密着した集荷活動の積極的な推進を行ってまいりました。

その結果、国内入出庫取扱量及び平均保管在庫量とも前期に比べ増加いたしました。国内入出庫取扱量は、前期に比べ82千トン増加し2,107千トンとなり、平均保管在庫量も前期に比べ114千トン増加し2,809千トンとなりました。

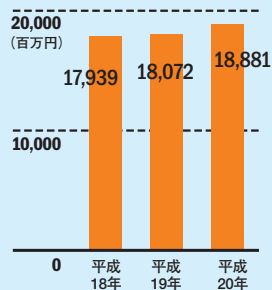
海外連結子会社であるタイヨコレイ株式会社は、物流コストの上昇等により内需、輸出ともに厳しい環境に加え2007年7月に完成したサムロン工場第3号倉庫の減価償却費及び冷凍設備のメンテナンスコストの増加により、前期比で減収減益となりました。

当期の冷蔵倉庫事業の業績につきましては、売上高は前期比4.5%増収の18,881百万円となりましたが、営業利益は新設いたしました物流センターの減価償却費及び開設初期費用の発生等により、前期比7.4%減益の3,338百万円となりました。

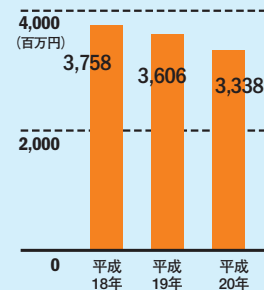
### 当期在庫量品目別割合



### 売上高



### 営業利益

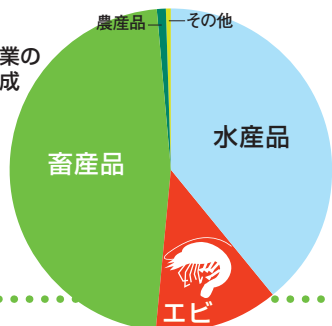




ヨコレイ・ビジネス

# 食品販売事業

平成20年  
食品販売事業の  
現状売上構成



## エビ・ビジネスにおける強み

生産者との強固な信頼関係を基盤に、安全、安心なエビの安定供給に努めています。



数多い水産品の中で唯一商品取引所に上場されているエビ。ヨコレイでは昭和40年にエビの輸入が自由化されたことを契機にエビ・ビジネスを本格化し、業界に確かな地位を築いてきました。国内消費の約90%を輸入品が占めると言われるグローバルなエビ・ビジネスの一端を、中核拠点のひとつである東京営業所を例にご紹介します。

### 東京営業所

東京営業所では、安全、安心なエビの安定供給を基本方針として、海外の最新情報を駆使した戦略的な営業活動を展開しています。取扱商品におけるエビの構成比率は約30% (平成20年9月期) であり、経験豊かな専任の営業担当者3名を配する主力食材として重要な位置を占めています。

東京営業所では、安全、安心なエビの安定供給を基本方針として、海外の最新情報を駆使した戦略的な営業活動を展開しています。



菜地市場風景



事務所風景

### 養殖エビ(加工品)の生産から納品までの流れ

#### 養殖

ヨコレイでは、中国、タイ、ベトナム、インドネシアなどの現地パッカーと協力してエビの養殖生産を行っています。品種については従来のブラックタイガーにかわって、病気に対する抵抗力が強く成長が早いバナメイエビが主流となってきました。



#### 加工

近年、消費者ニーズは有頭、無頭殻付の原料素材からムキエビなどの加工品へとシフトしてきました。ヨコレイは現地パッカーに委託して、厳重な品質管理体制のもとで一連の加工作業(除頭作業、ムキ作業から金属探知、冷凍保管等まで)を行っています。



#### 輸入

ヨコレイの営業担当者が輸入業務を手掛けています。中国海南島の海水養殖バナメイムキエビ、タイ産バナメイエビなどに注力し輸入量の拡大を図っています。





## ヨコレイのエビ・ビジネスの強み

- 老舗ならではの多彩な販路(商社・問屋・量販店・生協など)
- 「養殖・天然」「有頭・無頭殻付・尾付ムキエビ・ムキエビ」など幅広い取扱形態
- 信頼できる現地パッカーの選定から販売までのトレーサビリティによる厳格な品質管理
- 専任担当者が仕入から販売までを一貫して行うことで培われた豊富な商品知識
- 消費者ニーズの推移や養殖品種の変化への対応力と先見力

### 一口メモ

### エビのサイズ

エビのサイズは1ポンド(約453グラム)当たりの尾数で表示されます。例えば、41/50サイズは1ポンドに対して41尾から50尾になる比較的小型のエビを指します。量販店等で売られているパック詰め殻付エビの場合は、16/20や31/40サイズが中心になっています。

## 販売

輸入され冷蔵倉庫に保管されたエビは、商社や問屋、量販店などに販売されます。

トレーサビリティによる厳格な品質管理体制のもとで、食の安全、安心、美味しさの追求に寄与しています。



## 当期の概況

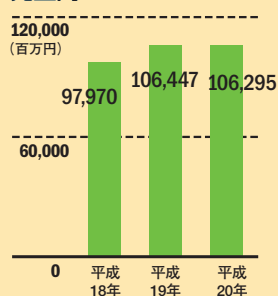
当期の前半は主力商品であるエビの相場が低調に推移し、また世界的な需要増大による激しい買付競争が水産品や畜産品の原料高騰を引き起こす等、当期を通して厳しい環境で推移いたしました。

このような環境下で、事業目標の達成に向けて国内外の市場・相場動向を注視しニーズに対応した効率的な仕入、販路拡大及び輸出等を積極的に推進いたしました。その結果、水産品、畜産品ともに取扱数量を前期並みに伸ばし、また、後半にはエビの相場が回復したこと及び畜肉の価格上昇等が収益に寄与いたしました。

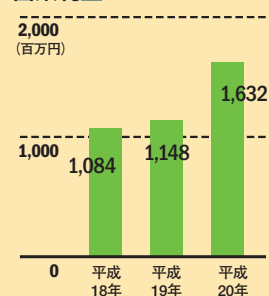
なお、新しい展開といたしまして農産品取扱シェア拡大のため、北海道虻田郡留寿都村に土地・倉庫等を買収により取得し、十勝営業所留寿都出張所として新たな拠点を平成20年8月に開設いたしました。

当期の食品販売事業の業績につきましては、売上高は前期比0.1%減収の106,295百万円、営業利益は前期比42.2%増益の1,632百万円となりました。

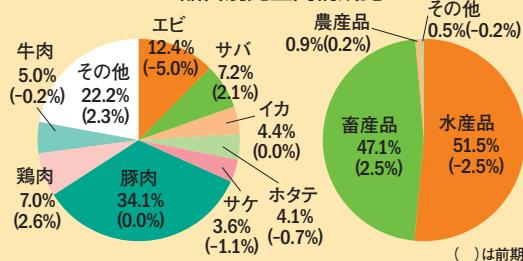
### 売上高



### 営業利益



### 品目別売上高構成比



( )は前期比

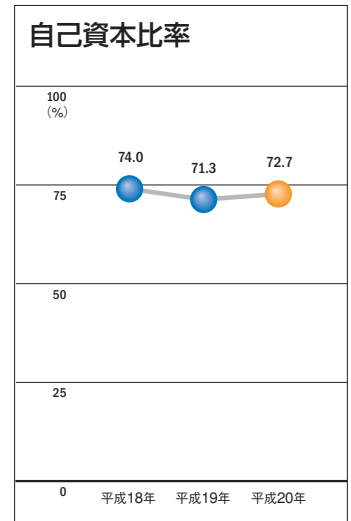
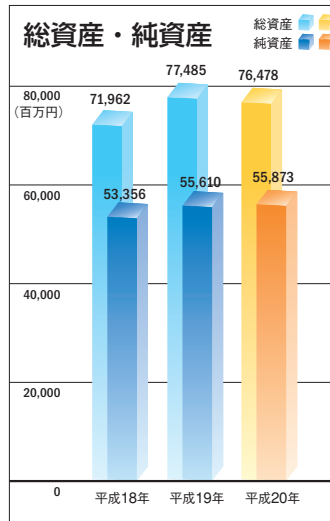
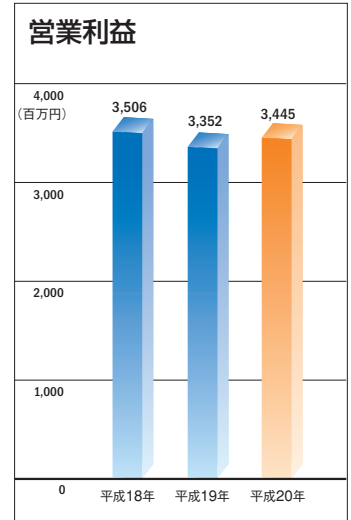
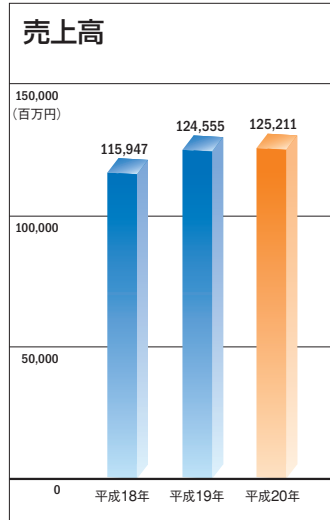
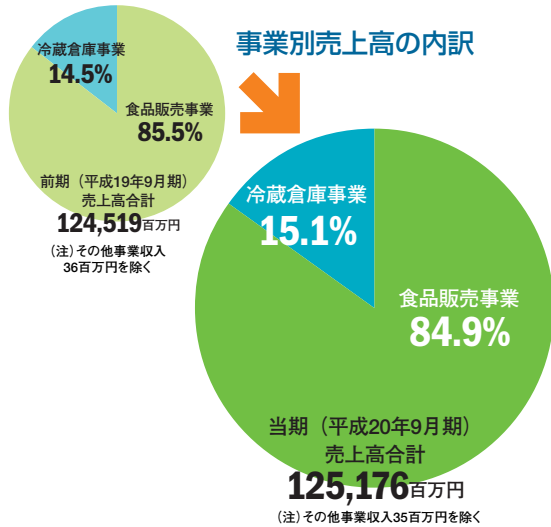


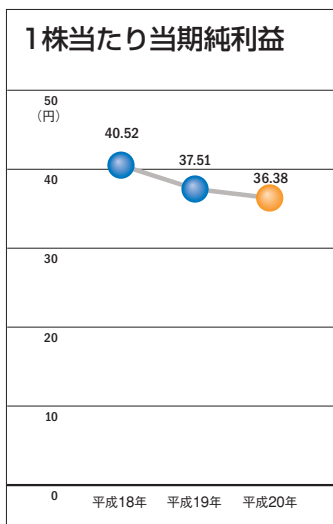
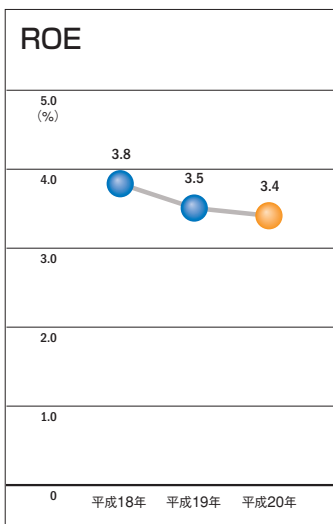
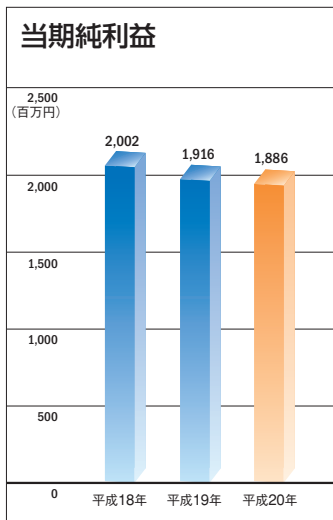
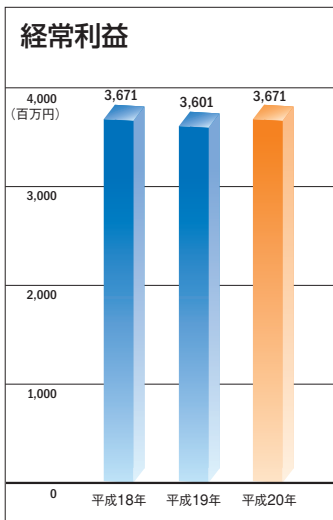
# 営業概況

## 当期の概況

当期において、当社グループは平成17年11月に発表しました中期経営計画(3ヵ年)の事業方針に基づき、冷蔵倉庫及び食品販売の両事業とも食品の安全性、顧客の求める商品・サービスの提供や新たな需要の開拓など積極的な営業活動を展開し、業績の伸展に努めてまいりました。

この結果、当期の連結ベースの売上高は前期比0.5%増の125,211百万円を計上し増収となりました。利益面は、売上総利益は前期比2.4%増益の8,837百万円、営業利益は前期比2.8%増益の3,445百万円、経常利益は前期比1.9%増益の3,671百万円となりましたが、特別損失として女川冷凍工場を平成20年9月30日に閉鎖したことによる減損損失121百万円及び有価証券評価損32百万円等の合計247百万円を計上した結果、当期純利益は前期比1.6%減益の1,886百万円になりました。





## 次期の見通し

今後の経済環境の見通しは、世界的な経済の減速を背景にわが国の景気は停滞感が強まるものと思われます。当面は、エネルギー・原材料価格高や輸出の伸び悩み等の影響が続き企業収益は減少傾向、また個人消費は物価上昇や所得の伸び悩みの影響により、弱含みで推移するものと思われます。

当社では、このような環境に対応し適切な事業展開を行い、企業価値を高め更に魅力的な企業となるために、第三次中期経営計画(3ヵ年)を策定いたしました。第62期から本中期経営計画の目標達成に向けて、全力で取り組んでまいります。

冷蔵倉庫事業につきましては、社員による物流オペレーション品質の向上及び幅広い顧客ニーズに対応できる設備力を一層充実させ、多彩な物流サービスの提案を積極的に推進し、新設物流センターの早期軌道化及び収益向上に努めてまいります。

食品販売事業につきましては、原料の安定供給と安全性の提供を最重点課題と位置づけ、事業活動を展開してまいります。今後も更に、原料サプライヤーとしての機能を拡充することにより、調達力の強化と販路拡大を図り、また、マーケット及び在庫のリスク管理を強化し、業績伸展に努めてまいります。

次期の連結業績見通しにつきましては、

### 次期(平成21年9月期)連結業績予想

売上高	127,500 百万円
営業利益	3,600 百万円
経常利益	3,775 百万円
当期純利益	2,010 百万円
1株当たり当期純利益	38 円 79 銭

を予想しております。



## 連結財務諸表(要約)

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	期別	第61期	第60期
		平成20年9月30日現在	平成19年9月30日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産		24,868	26,796
固定資産		51,609	50,688
有形固定資産		45,467	43,831
無形固定資産		1,662	1,764
投資その他の資産		4,479	5,093
資産合計		76,478	77,485
<b>負債の部</b>			
流動負債		19,693	20,538
固定負債		911	1,336
負債合計		20,604	21,874
<b>純資産の部</b>			
株主資本		55,339	54,421
資本金		11,065	11,065
資本剰余金		11,109	11,109
利益剰余金		33,645	32,692
自己株式		△ 481	△ 446
評価・換算差額等		249	862
其他有価証券評価差額金		342	847
繰延ヘッジ損益		△ 3	0
為替換算調整勘定		△ 90	14
少数株主持分		283	326
純資産合計		55,873	55,610
負債純資産合計		76,478	77,485

#### CHECK POINT 固定資産（第61期設備投資額）

鳥栖第二物流センター	2,377百万円
十勝第二物流センター	1,881百万円

### 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第61期	第60期
		平成19年10月1日から平成20年9月30日まで	平成18年10月1日から平成19年9月30日まで
売上高		125,211	124,555
売上原価		116,374	115,929
売上総利益		8,837	8,626
販売費及び一般管理費		5,392	5,273
営業利益		3,445	3,352
営業外収益		309	301
営業外費用		82	52
経常利益		3,671	3,601
特別利益		0	160
特別損失		247	219
税金等調整前当期純利益		3,424	3,542
法人税、住民税及び事業税		1,645	1,513
法人税等調整額		△ 126	86
少数株主利益		18	26
当期純利益		1,886	1,916

### 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	期別	第61期	第60期
		平成19年10月1日から平成20年9月30日まで	平成18年10月1日から平成19年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー		6,676	1,977
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 5,730	△ 7,282
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 46	3,735
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 9	40
現金及び現金同等物の増減額		889	△ 1,528
現金及び現金同等物の期首残高		1,294	2,822
現金及び現金同等物の期末残高		2,183	1,294

(単位：百万円)

## 連結株主資本等変動計算書

(平成19年10月1日から平成20年9月30日まで)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
平成19年9月30日残高	11,065	11,109	32,692	△ 446	54,421
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当			△ 933		△ 933
当期純利益			1,886		1,886
自己株式の取得				△ 34	△ 34
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					—
連結会計年度中の変動額合計	—	—	952	△ 34	918
平成20年9月30日残高	11,065	11,109	33,645	△ 481	55,339

	評価・換算差額等				少数株主 持分	純資産 合計
	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計		
平成19年9月30日残高	847	0	14	862	326	55,610
連結会計年度中の変動額						
剰余金の配当				—		△ 933
当期純利益				—		1,886
自己株式の取得				—		△ 34
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△ 505	△ 3	△ 104	△ 613	△ 42	△ 655
連結会計年度中の変動額合計	△ 505	△ 3	△ 104	△ 613	△ 42	262
平成20年9月30日残高	342	△ 3	△ 90	249	283	55,873

## 期末配当金について

### 1. 創立60周年記念配当の実施

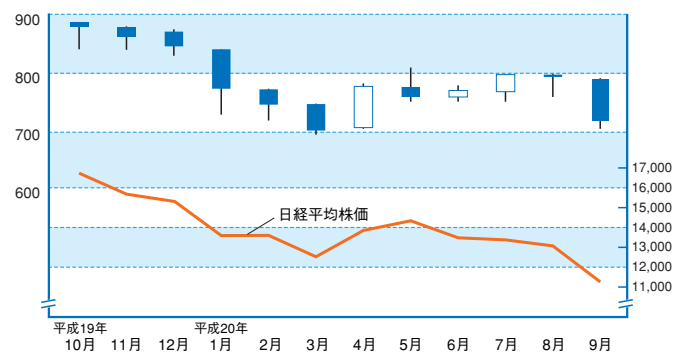
当社は、平成20年5月13日をもちまして創立60周年を迎えました。つきましては、永年にわたる株主各位のご支援に感謝の意を表すとともに、今後ともご支援を賜りたく、記念配当を実施させていただくことにいたしました。

### 2. 期末配当金の内容

① 1株当たり	記念配当金	2円
	普通配当金	9円
	計	11円
② 対象の株主様	平成20年9月30日現在の株主名簿及び実質株主名簿に記載された株主	

## 株価の推移

(単位：円)







## 特別コラム



ヨコレイくんが行く!

### 倉庫の中を探検 VOL. 6

冷蔵倉庫の中で  
保管されていたお客様の大切な  
貨物がいよいよ出庫される。  
その様子を探ってみよう。  
1階の出庫エリアだ!



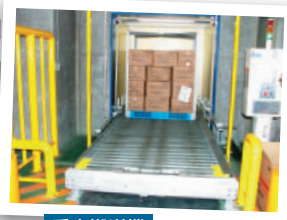
ドラム積込

#### ●出庫編

ヨコレイの倉庫にはいろいろなものが保管されている。最も多いものは冷凍貨物で、他にチルド品や常温の貨物もある。

肉、野菜、魚、飲料や工業製品など、それぞれ原料品から製品まで実にさまざまだ。

それに家庭の冷蔵庫と同じように季節によって保管貨物が様変わりするらしい。



垂直搬送機

おっ! 垂直搬送機を使って上階から箱詰めされた冷凍貨物が沢山下りてきたぞ。よく見えないけど色々な料理に使われる食材かもしれないな。

貨物は、フォークリフトで出庫エリアに運ばれ、間違いないかどうか、貨物の情報(出庫伝票)と照合される。間違いなければ、フォークリフトでトラックなどの輸送車に積み込まれる。

今度はドラム缶が沢山下りてきたぞ。かなり重そうだ。どうやって積み込むつもりだろう。

ムム、特殊な器具をフォークリフトに取り付

けて、見事につまみあげたぞ!(スゴイ!)

それにしてもこれらの冷凍貨物はどこへ行こうとしているのだろうか?

なんと行き先は、日ごろ利用しているレストランやファストフード店などの飲食店やスーパー、コンビニエンスストアといった販売店舗、それに食品製造工場や加工場、そのほか配送センターなどさまざまだ。



全国各地のさまざまなところへ

とにかく、いずれは

みんなの口に入ることになるだろう。

当たり前と思われている食の安定供給と安全・安心。実は、こうした冷蔵倉庫が支えているんだ。

#### 特別コラム

「ヨコレイくんが行く! 倉庫の中を探検」シリーズは今回でおしまいです。次のシリーズをお楽しみに!





## 会社概要 (平成20年9月30日現在)

会社名 横浜冷凍株式会社  
 本社所在地 〒220-0022  
 横浜市西区花咲町六丁目145番地 横浜花咲ビル7階  
 TEL: 045-326-1010 (代表) FAX: 045-326-1145

設立 昭和23年5月13日  
 資本金 11,065,926,625円  
 従業員数 941名

業務内容  
 1. 冷蔵倉庫業並びに普通倉庫業  
 2. 水産品の加工、販売並びに輸出入  
 3. 農畜産物の加工、販売並びに輸出入  
 4. 不動産賃貸業  
 5. 貨物運送取扱事業並びに貨物自動車運送事業  
 6. 食堂及び喫茶店の経営並びに飲食物の販売  
 7. その他前各号に付帯関連する一切の事業  
 (定款における事業目的)



## 役員及び執行役員 (平成20年12月22日現在)

代表取締役社長	吉川俊雄
取締役	小水林
取締役	水野隆
取締役	藤田裕
取締役	飯田敏
取締役	西山敏
取締役	安岩富
取締役	中岩西
取締役	吉大橋
取締役	久保米
取締役	中崎上
執行役員	井須藤
執行役員	笹崎
執行役員	安岩達
執行役員	竹村
執行役員	知男
執行役員	一介
執行役員	彦司
執行役員	等
執行役員	徹
執行役員	人
執行役員	男



## 株式の状況 (平成20年9月30日現在)

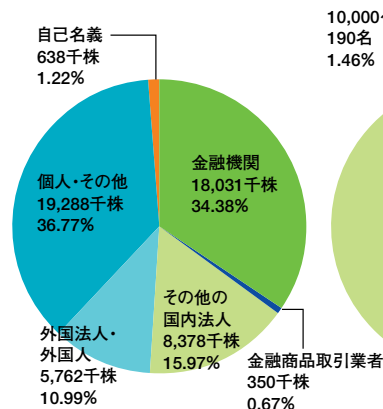
発行可能株式総数 160,000,000株  
 発行済株式の総数 52,450,969株  
 株主数 13,015名

### 大株主(上位10名)

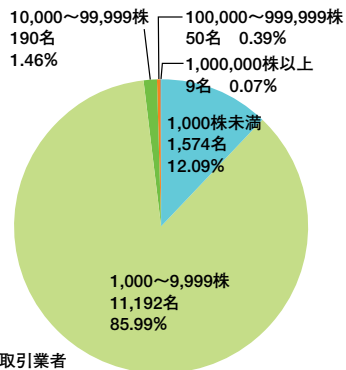
大株主名	当社への出資状況	
	持株数(千株)	出資比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	4,542	8.77
第一生命保険相互会社	3,108	6.00
株式会社横浜銀行	2,176	4.20
タイヨーパールファンドエルピー	1,834	3.54
農林中央金庫	1,473	2.84
株式会社八丁幸	1,411	2.72
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナル キャップバリュポートフォリオ	1,078	2.08
株式会社サカタのタネ	1,022	1.97
横浜冷凍従業員持株会	905	1.75
横浜振興株式会社	892	1.72

(注) 出資比率は自己株式(638,300株)を控除して計算しております。

### 所有者別株式分布状況



### 所有株式数別株主分布状況



## 株主メモ

事業年度	10月1日より翌年9月30日まで
定時株主総会	12月
基準日	定時株主総会の議決権 9月30日 剰余金の期末配当 9月30日 剰余金の中間配当 3月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告した日
公告の方法	電子公告 ※電子公告は当社ホームページに掲載いたします。 なお、やむを得ない場合は日本経済新聞に掲載します。 <a href="http://www.yokorei.co.jp/kessan.html">http://www.yokorei.co.jp/kessan.html</a>
単元株式数	1,000株
上場取引所	東京証券取引所(第1部)
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-232-711(フリーダイヤル)


## 株主の皆さまの声をお聞かせ下さい。

当社では、株主の皆さまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ですが、アンケートへのご協力をお願いいたします。


下記URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答下さい。所要時間は5分程度です。

 <http://www.e-kabunushi.com>  
アクセスコード 2874

Yahoo!, MSN, exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶと4文字入れて検索して下さい。

 空メールによりURL自動返信  
kabu@wjm.jpへ空メールを送信して下さい。(タイトル、本文は無記入)アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。  
ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(図書カード500円)を進呈させていただきます。

 ※本アンケートは、株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。(株式会社エーツメディアについての詳細<http://www.a2media.co.jp>) ※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただきます。事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

●アンケートのお問い合わせ TEL:03-5777-3900(平日 10:00~17:30)  
「e-株主リサーチ事務局」 MAIL:info@e-kabunushi.com

## 平成21年1月5日施行の株券電子化実施に伴うお知らせ

### 1. 特別口座について

#### (1) 特別口座への口座残高の記帳

株券保管振替制度をご利用でない株主様につきましては、ご所有の株式は三菱UFJ信託銀行に開設される特別口座に記録されます(平成21年1月26日に記録される予定です)。なお、特別口座に記録された株式数等のご案内は、平成21年2月中旬頃に、三菱UFJ信託銀行から、お届けのご住所宛にお送りする予定です。

#### (2) 特別口座に記録された株式に関するお手続き

特別口座に記録された株式に関するお手続き(株主様の口座への振替請求・単元未満株式買取請求・お届出住所の変更・配当金の振込指定等)につきましては、株券電子化実施後、下記口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)の連絡先にお問合せ下さい。なお、特別口座に記録された株主様のお手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行の全国本支店でお取次ぎいたします。

#### (3) 特別口座の口座管理機関及び連絡先

特別口座の口座管理機関は、当社株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行となります。

口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711(通話料無料)

#### (4) 特別口座の口座管理機関でのお手続きの受付の開始時期

特別口座に記録された株式についての、株主の口座への振替請求、単元未満株式買取請求等の各種ご請求やお届出につきましては、平成21年1月26日(月)以降にお手続きが可能となりますので、ご留意下さい。

### 2. 株券電子化前後における単元未満株式買取請求について

株券電子化の前後においては、単元未満株式買取請求につきましては、以下のとおりとなりますので、ご留意下さい。

#### (1) 保管振替制度をご利用でない単元未満株式

平成21年1月5日(月)から平成21年1月25日(日)までは、受付をいたしません。また、平成20年12月25日(木)から12月30日(火)までのご請求受付分につきましては、買取価格はご請求受付日の終値を適用いたしますが、買取代金のお支払いを平成21年1月30日(金)とさせていただきます。

#### (2) 保管振替制度をご利用の単元未満株式

株券電子化実施の前後において、一定期間お取引の証券会社で取次ぎを行わないと承っております。具体的な日程につきましては、証券会社により異なることが考えられますので、お取引の証券会社にお問い合わせ下さい。